



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を  
一人一人が輝く子どもの姿を求めて

★1月の目標

- ★学習をがんばろう
- ★みんなと なかよくしよう
- ★笑顔で

★配布物のお知らせ

- 1 学校便り

★今後の行事計画

- 11月25日サンクスギビング 休み
- 12月2日幼稚部入園募集開始
- 12月16日2学期終業日
- 1月6日3学期始業日

★二年二組 秋を感じるもの

奥山 はやと

ぼくは、はっぱがオレンジ色と赤色になり、ハロウィンが近づいたら秋を感じます。さむくなつて、あつくならなかったら秋を感じます。



★二年二組 秋を感じるもの

松本 れみ

わたしが秋を感じるのには、もみじとねこじやらしです。もみじは、秋になるとみることができまらしは秋になるとさきまです。どちらも秋だなと思います。



★四年二組 「いんぎつね」

松本 藍里

その後、兵十は加助のところへ行って話しました。おい加助、おれはあのいたずらをしていたごんをうってしまったんだ。」

「いいことじゃねいか。」それが、あのくりや松たけをくれたのは、ごんだったんだ。」

そうだったのか。でも、ごんがおまえのうなぎをとったんだろ。」

「うぐないだったんだ。」

二人は兵十の家へ帰り、その残ったくりを食べました。二人は、ごんにすまないと思いました。

★四年二組 「いんぎつね」

續木真瑠花

ごんが死んだ次の日、おれは加助の家に行った。そして、加助に神様じゃなく、ごんがくりや松たけをくれたのを言った。加助はびっくりしていた。加助は、おれにこう言った。

「本当なかい。うなぎをぬすんだごんぎつねが、めぐんでくれたのか。」

でも、わけを説明すると加助もおれの言っていることが分かってきた。おれは、家で考えた。どうしておれがまず何も話さないで火なわじゅうでうってしまっただろう。おれは、ごんのおはかを作って、毎日おいのりをした。村の中でもそのごんぎつねが話題になった。村のみんなでおそなえ物をし、村の有名なきつねになった。おれは、ごんがくりや松たけをくれたかわりに、おれがごんにくりや松たけをそなえた。ずっとわすれなかった。

★四年二組 「いんぎつね」

永井 洸太郎

ごんが死んでしまったその次の日、兵十と加助が中山様のおしろの前の道をぶらぶら歩いていました。少し行くと、兵十が言い出しました。

「あのなあ加助。」

「なんだ。」

「おれは、きのうごんを火なわじゅうで やっちまったんだ。」

「いいじゃないか。お前が言っていたじゃないか。ごんぎつねめが、うなぎをぬすみやがった。今度会ったらこらしめてやるうって。」

「言ったけど、そうじゃないんだ。」

「なんで。こらしめられたならいいじゃない。」

「だって、くりを持って来てくれたのはごんだったんだよ。」

「えっ。」

二人は、しばらくだまっていました。

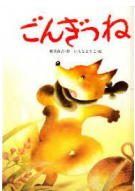
「ごんがそんなにいいやつだなんて思いもしなかったよ。」

「だな。」

「最近、ごんみたいなかしいきつねが出たというから、またいたずらをして来たなら、うたないで様子を見ようと思っただ。」

「そいつはいい考えた。」

それから、二人はそれぞれの家に帰りました。



★四年二組 「いんぎつね」

野田 唯花

兵十は死んでしまったごんを見ておちこみました。ごんを土の中にうめて、石をのせました。兵十は深いため息をつきました。とてもなわをなうじょうたいではなかったので、散歩することにしました。中山様のおしろの通り少し行くと、加助が歩いているのが見えました。」

なあ、加助。」

ああん。」

おれが物置でなわをなっていたとき、いんぎつねが家の中に入って来たから、火なわじゅうでころしちまったんだよ。」

ふうん、それで。」

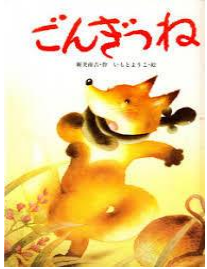
そのときに、土間にくりが固めて置いてあるのを見て、いんぎつねが毎日くりや松たけをくれたと分かったんだよ。いんぎつねをうたなければよかったと思ったんだ。悪い事をしたなと思ったんだ。」

あのごんぎつねも、きつとうなぎをぬすんでしまったことを悪く思ったんだろう。」

と、加助が言いました。家に帰ると、兵十はごんのことを思い出しました。兵十は、いんぎつねをうめた場所に行きました。兵十は目からなみだが出てきました。いんぎつねをうったことを深く反せいして泣きながら石のそばでじっとしていました。

「ごめんよ、いんぎつね。」

兵十は泣きながら言いました。



★六年一組 秋の俳句・短歌



秋分は葉がそまってく赤色に 辻本 凜香

家々にかぼちやがならば寒露かな 佐藤 隼人

朝起きて寒を感じる霜降だ 鈴木 涼花

ほほに手を当てる感じる寒露かな 澤本 和奏

立秋を感じる時はいい温度 竹内 翔太郎

寒露だな葉っぱキラキラと落ちてゆく

グリグーティス 晶子

木枯らしに 体ふるわず霜降の日 村重 太陽

ころもがえ人々はみな温かと木は葉が落ちてもう寒々と

柘植 航太

立秋が来ると始まる現地校長いいいなサマーブレイク

日置 庵文

秋の暮れ紅さに見とれ足止まる太陽が燃え空赤くなる

柘植 航太

スーパリーにかぼちやごろごろにぎやかだ秋のオレンジも  
うハロウィン

吉田 ロイス

きらきらと寒露かがやき草の上虫も静かに目を覚ます  
ころ

吉村 泉希

透き通る霜降の朝ベンチの上に白い妖精かき集め取る

近藤 和暉



★三年二組 自分の名前の由来

戸田 凌聖

ぼくの名前は、りようせいです。名前についてお母さんに聞きました。お兄ちゃんの名前が「いせい」なので「せい」がよかったそうです。いちばんひびきがいい「りようせい」にしたそうです。漢字がなかなか決まらなかったそうです。ぼくが生まれる前に決めたかったそうです。ぼくが生まれてすぐに決まったそうです。この名前が気に入っています。

★三年二組 自分の名前の由来

竹内 駿介

ぼくのおにいちゃんの名前がしようたろうで、それにはばたくという意味です。ぼくは、地面を駆け抜けるから駿です。馬へんがつかわれています。介は、かっこいいのでつけたそうです。ぼくはこの名前が好きです。なぜかと言うと、かけっこが馬のようにはやくなりたいたいからです。

★三年二組 自分の名前の由来

日置 琳音

わたしの名前は、お父さんがつけてくれました。生まれた時のわたしの顔を見て、雰囲気や名前の響きから決めたそうです。名前を決めた後に、漢字の本で画数を調べてよい漢字をつけてくれました。お父さん、いい名前をつけてくれてありがとう。

